



墨東の学び

学校通信⑧号

令和5年10月31日発行

東京都立墨東特別支援学校

校長 田村 康二郎

先日、秋の学校公開を2日間に亘り開催しました。行政・福祉・医療・訪問看護のスタッフ、転学検討のご家族など多数の方が来校されました。地域の当事者のご家族の皆様が望んで実現した本校の歩み、本校の機能のご紹介と実際の授業を見て頂きました。特別支援学校の教育について随時発信に努めてまいります。

＜病弱教育部門＞ロボットプログラミング選手権

関東甲信越大会の激戦を勝ち抜き、全国大会へ！

前号でお知らせした＜入院中の病弱教育部門の児童・生徒にも、全国規模で切磋琢磨する機会をとの願いが発端となり、全国の病弱教育校長会が始めた伝統の大会が「全国ロボットプログラミング選手権」＞の関東甲信越地区大会(10/5開催)の結果が届きました。1都8県の14病校から24チームが出場しました。激戦のトーナメント戦を勝ち抜いた本校の病院訪問生2チームは、6位以内に入賞したため、晴れて全国大会に出場が決まりました。おめでとう！

本校チームの対戦を御紹介します。

◆墨東Aチーム【サザンドラ・スヌーピー・サク】

◆墨東Bチーム【うさぎ・スカイ・ジャイアンツ】

学習指導要領と肢体不自由・病弱特別支援学校

全国どこでも国民として同じ内容の教育が受けられるように、小・中・高校と同様に「特別支援学校学習指導要領」が公教育として国により定められています。この学習指導要領は、学部別・障害種別に構成されています。肢体不自由や病弱のみを有するお子さんを対象にした小・中・高校の教育に相当する教育(準ずる教育課程)を行う際の教科別の内容と、知的障害を伴うお子さんを対象とした教育(知的障害を併せ有する児童・生徒の教育課程)を行う際の教科別の内容、さらに重度・重複障害を有するお子さんを対象とした自立活動を学習の中心に据えた教育(自立活動を主とする教育課程)に分かれています。

知的障害を伴うお子さんを対象とした教育では、例えば算数では「色や形、大きさに着目して分類すること」等と学習指導要領に示されています。基礎段階の国語・算数学習のファーストステップ「1・2・3段階」の例を以下に紹介します。

基礎段階の国語の内容「聞くこと話すこと」1～3段階

第1段階では例えば、「身近な人からの話し掛けに注目したり 応じて答えたりすること」、これが第2段階になると「簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること」、第3段階では「経験

したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること」とステップアップしています。

基礎段階の算数・数学の内容「図形」1～3段階

第1段階の例「具体物に注目して指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったり、形を観点に区別すること」、これが第2段階では「色や形、大きさに着目して分類すること。身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類すること」、これが第3段階では「ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えること。具体物を用いて形を作ったり分解したりすること」と発展していきます。つまりスモールステップによる学習内容の進行なのです。

ちょっと考えると分かるステップが指導のポイント

振り返ると、校内でよく見かける○と△(マル・サンカク)の型はめ板を用いた学習は、「身近にある物の名前を聞いて取ったり、形で分けたりする学習」であり、小の算数・中高の数学に連なる、大切な道筋の中に位置付く学習ステップです。「赤いビー玉を頂戴！」や「どちらの箱に入っていますか

？」も一見、遊んでいるように見えますが、選択・記憶を含む算数の学習の一步として欠かせません。

集団にあっても一人一人の理解度や手・目の動きが異なる個々の子供の発達の実態に合わせて、ちょっと考えると分かるステップを用意できることが、この教育に関わる教員の専門性として、欠かすことができない力です。

「ひらがな」と「カタカナ」の成り立ち

本校では「国語」「算数・数学」の学習指導を特に大切にしています。どのように障害が重くとも、言葉や文字獲得に向けて日々の学習で一步一步積み上げていくことが学校の使命と自覚し、全校挙げて取り組んでいます。前項では基礎段階の「国語」「算数・数学」の学習として、言語や文字獲得につながる「物を見る」「物に注視する」「見比べる」「選ぶ」「取る」等の学習が大切なステップであることを御説明しました。(この系統の指導には高い専門性が不可欠です。しかし大学の教員養成課程や採用時の初任者研修ではこうした関係の具体的な技術指導は実は皆無なのです。そこで本校では専門家を招き、全教職員を対象に指導実技研修を定期開催し技術修得に努めています。また、家庭教育の支えも不可欠ですので、関連したテーマで保護者学習会をPTAと共催しています。(11/8に開催の保護者向け学習会も

その一環です。)

今号では、ひらがな獲得後の段階であるカタカナ習得に関して「カタカナ習得の難しさから考える学習上の留意点」について取り上げます。

ひらがな・カタカナの成り立ち

私たちは日頃、漢字かな混じり文を用います。遙か以前には、助詞も内容も全て漢字で表す「全文漢字の時代」がありました。そこに頻繁に出てくる助詞や活用語尾等、字を**書き易いように漢字全体の形を思い切って崩したものが「ひらがな」と**言われています。例えば「安」→「あ」全体の輪郭を残しながら曲線を多用し、6画から3画へと書き易く変化させています。

(他は下表を参照)

元となる漢字 ⇒ ひらがな50音

安 → あ	以 → い	宇 → う	宀 → え	於 → お
加 → か	幾 → き	久 → く	計 → け	己 → こ
左 → さ	之 → し	寸 → す	世 → せ	曾 → そ
太 → た	知 → ち	州 → つ	天 → て	止 → と
奈 → な	仁 → に	奴 → ぬ	祢 → ね	乃 → の
波 → は	比 → ひ	不 → ふ	部 → へ	保 → ほ
末 → ま	美 → み	武 → む	女 → め	毛 → も
也 → や		由 → ゆ		与 → よ
良 → ら	利 → り	留 → る	礼 → れ	呂 → ろ
和 → わ	為 → ゐ		恵 → ゑ	遠 → を
		无 → ん		

備考 ①ひらがなとカタカナで元の漢字が異なる場合に口を付した。

元となる漢字 ⇒ カタカナ50音

阿 → ア	伊 → イ	宇 → ウ	江 → エ	於 → オ
加 → カ	幾 → キ	久 → ク	介 → ケ	己 → コ
散 → サ	之 → シ	須 → ス	世 → セ	曾 → ソ
多 → タ	千 → チ	川 → ツ	天 → テ	止 → ト
奈 → ナ	仁 → ニ	奴 → ヌ	祢 → ネ	乃 → ノ
八 → ハ	比 → ヒ	不 → フ	部 → ヘ	保 → ホ
末 → マ	三 → ミ	牟 → ム	女 → メ	毛 → モ
也 → ヤ		由 → ユ		与 → ヨ
良 → ラ	利 → リ	流 → ル	礼 → レ	呂 → ロ
和 → ワ	井 → 卍		恵 → エ	平 → ヲ
		尔 → ン		

備考 ①ひらがなとカタカナで元の漢字が異なる場合に口を付した。

②上表は wikipedia の「平仮名の一覧」「片仮名の一覧」を引用加工した。※フリー文書利用許諾書により複製・改変は許可されている。

一方、漢字の一部だけを取り出したものがカタカナで

す。漢文訓読(例：漢文を日本人が読む際のし点)の際に用いられ始めました。カタカナは行間の小さなスペースに小さな字で書けるように、漢字の片側だけを表記したものだと言われています。

学習時に混乱しやすいのはなぜ？

実は、ひらがなとカタカナの間では、形の難易度や書きやすさに一貫した共通性が無いからです。例えば「加」→「か」は漢字全体の字形を生かしています。そして「力」は、その漢字の一部(偏)を活かして分かり易いのですが、この原則ばかりではないのです。「知」→「ち」と「千」→「チ」、「波」→「は」と「八」→「ハ」のように、元となる漢字が全く異なることから、ひらがなとカタカナの形に共通性が無いものもあります。

一方、文字形がそっくりの場合もあります。(へ・へ)(り・り)ですから、ひらがなが定着していない段階でカタカナの学習を始めると、「音」から結びつくひらがなとカタカナの2種の文字が脳内に想起されてどちらでもよいと判断してしまったり、似たような形だからとカタカナを混ぜてしまったりします。

こうした時は指導の鉄則「急がば回れ」です。基礎をしっかりと固めることが実は早道です。まず「ひらがな」(読・書・話・聞)の獲得と定着が最重要です。ひらがなだけでも十分に単語や文は作れますし、手紙も書けますし、誰でも読めます。ひらがながしっかりと定着してから、横書きで書くカタカナの学習に入ります

<認知・言葉・数等の学習解説を随時連載していきます>

<都指定事業>生成A | 研究校の事業概要が分かりました!

指定通知が届きましたので、概要を説明します。

○指定の趣旨/都立高等学校、都立中等教育学校(後期課程)及び都立特別支援学校(高等部)において、生成A | の教育活動での活用に関するパイロット的な取組を進めることを目的として指定

○指定校/都立井草高、小岩高、両国高、日野高、砂川高(通信)、立川国際中等校(後期)、墨東特(高)、光明学園(高)、青鳥特の9都立校

○指定期間/令和5年9/26~6年3/31日まで

○主な取組内容/校内で生成A | の効果的活用研究実施

- ①A | リテラシーの指導法
- ②授業等での効果的活用法
- ③教職員の校務における効果的活用法

⇒本校では高等部教科「情報」等の学習と校務で活用を研究していきます。

<参加受付中> 11/8(水) AMに保護者学習会を開催!

先日、さくら連絡網及びプリント配布で御案内しました通り、保護者向け学習会の参加申し込みを11/2まで受付中です。(会場と教材準備の関係で参加人数の把握が必要ですので御協力ください。)

校長 田村 康二朗